



syoun

旬



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

「人吉医療センターは、「ソフロロジー式出産法」の認定施設になりました！」



LDRの様子



左から、瀬戸 Dr・当院助産師・渡邊 Dr



認定証

「ソフロロジー式出産法」って知っていますか？
呼吸法やリラックス法により、お産の痛みが少なくなり、
また、ママも赤ちゃんもとても元気でいられます。
お産は不安で大変なものです。

練習をしないで臨むなんて無謀だと思いませんか？
「ソフロロジー式出産法」では、妊娠中に、次のような
練習をしてもらいます。

- (1) 口からゆっくり長く吐く「呼吸法」。
- (2) リラックスを体感するための「エクササイズ」。
- (3) 音楽療法のCDをくり返し聴く「イメージトレーニング」。

これらは、妊婦健診や母親学級で指導します。
難しいものではありません。
繰り返し練習することで、赤ちゃんとの一体感が生まれ、
お産に対する気持ちがポジティブになっていきます。
「ソフロロジー式出産法」は、熊本大学産婦人科におら

れた松永昭医師がフランスで学び、1987年に日本へ紹介
したものです。

禅やヨガの要素も取り入れ、より良いものになっていま
す。

おなかの中の赤ちゃんは、まだ顔が見えていないだけで、
すでに一人の人間として家族生活を始めています。

たくさん話しかけて、赤ちゃんにママとパパの声を聞か
せてあげましょう。

「ソフロロジー式出産法」では、お産の方法だけでなく、
妊娠中から、赤ちゃんとの絆を深めることを大切にしてい
ます。

このたび、人吉医療センターは「ソフロロジー式出産法」
の正規認定施設となりました。

あなたも、「ソフロロジー式出産法」で素晴らしいお産
をしてみませんか？

産婦人科 渡邊 龍太郎

今回、ソフロロジー式出産法を体験された方から感想を頂く事ができましたのでご紹介いたします。

出産前の定期健診の時に行われた母親学級に参加し
「ソフロロジー式出産法」を学んだことで、出産まで不
安でしたが、出産に挑む心の準備ができました。

特に教えていただいた音楽は、夜の安眠に繋がりました。
また、呼吸法については今回、初産だったので、らく
くなったかと尋ねられると良くわかりませんが、呼吸

の仕方や陣痛の間隔等を学んでいたおかげで、きつい時
の支えになりました。

無事に産まれてきてくれて本当によかったです。出産
まで支えて頂いた病院の方々に感謝します。

29歳 女性

第55回日本癌治療学会学術集会

「認定がん医療ネットワークナビゲーターと委員による相互交流会」に参加して

10月20日から22日にかけてパシフィコ横浜を会場に「第55回日本癌治療学会学術集会」が開催されました。私は、2日目の「認定がん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビ）」と委員による相互交流会の演者として参加し、「がんナビ」委員会委員長の片淵秀隆教授（熊本大学医学部附属病院産婦人科）や西山正彦教授（群馬大学）、佐々木治一郎教授（北里大学）、相羽恵介教授（東京慈恵会医科大学）、藤也寸志先生（九州がんセンター）、吉田稔先生（熊本赤十字病院血液腫瘍内科）、「がんナビ」認定者、医療関係者とも意見交換をさせていただきました。

「がんナビ」とは、日本癌治療学会が「ジュニア」と「シニア」2段階で認定するもので、地域でがん診療連携拠点病院のがん相談支援センター（がん専門相談員）をサポートするものです。「ジュニア」はがんに関係する情報の収集・提供、「がん専門相談員」の周知、加えて「シニア」は地域とがん相談支援センターのつなぎ、がん教育・啓発、情報の正しい理解の促進などが主な役割となります。全国で27名、熊本は私を含め7名の認定者（シニア）があり、職種は医師・看護師・薬剤師・診療情報管理士・メディカルクラーク・ピアサポーター、介護職など多岐にわたっています。

講演では、私が「がん専門相談員」と「がんナビ」両方の立場から、両者をつなぐ活動につき報告しました。「がん専門相談員」の課題として、がん診療・情報の均てん化には絶対的に人数が少なく、認知度も低いという状況があります。また、相談支援には高度な技術が必要であり、その質は維持すべきものとされます。そこで、全国のがん患者さんやご家族の為に、相談支援ネットワークを拡大しつつ質を維持する為には、「がん専門相談員」と「がんナビ」間の高度な連携が必要であるということをお話しさせていただきました。更に、その為に行った両者の交流を図る活動も報告させていただきました。参加者から「全国的にみて先駆的で必要なこと」と評価いただきました。意見交換では、「認定は受けたが、活動方法が分からない。相談する仲間がいない」との悩みに対し、熊本県のメーリングリスト作成への取り組みをご紹介しました。



地域に多く存在するがん患者さんやご家族が、それぞれ地域に（様々な職種として）多く存在する「がんナビ」から情報を得て、がん相談支援センターにもつながる、逆に医療者側の発信する情報が地域の隅々に行き渡るネットワークにて、がん診療・相談支援の均てん化が図られることが理想です。学会では「がんナビ」についての記者会見も行われ、相互交流会でもその重要性が再確認されたことは大変有意義であったと思います。私もがん相談支援における仲間作りに尽力すべきとの思いを新たにしました。

他にも、今回の学術集会は「それぞれの癌、それぞれの生」をメインテーマにがん患者支援や最新医療につき興味深い企画ばかりで、小中高生を対象として始められている「がん教育」についてのシンポジウムや「がん患者・支援者プログラム」など充実していました。「がん教育」については当院専門職へも講師依頼がある予定です。がん患者支援についても「全国がん患者団体連合会」の結成とその精力的活動（国のがん対策推進を求める要望書提出など）の報告は刺激を受けました。この学会で得た知識や思いをもって、更に「がんナビ」の募集も進めながら、地域での心理社会的支援のネットワークを広げていければと思います。

※当院歯科口腔外科・野村昌弘先生も「がんナビ」eラーニングを受講されています。関心のある方は是非ご連絡ください。

がん相談支援センター
がん専門相談員
がん医療ネットワークナビゲーター
南 秀明

総合診療 専攻医募集！

当院は総合診療専門医の基幹病院で、専攻医募集を開始しています。熊本には6つの総合診療専門医研修の基幹病院があり、1つが人吉市にあり、5つが熊本市にあります。当院以外は、熊本大学附属病院、熊本赤十字病院、くわみず病院、熊本医療センター、済生会熊本病院です。それぞれの研修プログラムが一定期間の、総合診療の研修と、内科・小児科・救急科の研修を行い、学習履歴の記録と自己省察の記録を作成し、3年間のプログラム研修を経て専門医試験を受験することになります。平成30年度から始まる専門医制度ではどの基本19領域も専攻医が都市部に集中しないように管理されていますが、総合診療の研修には、約1年間の地方研修も含まれ、医師が少ない阿蘇地域、天草地域、球磨地域で幅広く外来医療、在宅医療、病棟医療、救急医療、地域ケアなど経験することになります。当院のプログラムでは、特に人吉球磨での経験に重点をおきますが、熊本県内のさまざまな地域医療に加え、総合診療医育成に重点をおいているJCHO関連病院（東京都）での地域医療や、沖縄県の離島医療も経験できる機会を設けています。地域から学ぶことは大変多く、地域に学び地域に貢献できる専門医研修がみんなのできるように環境を作っていきます。

総合診療部 医師 田浦 尚宏

接 遇 勉 強 会

先日、院内で行われた接遇研修に参加させて頂きました。入職して半年を迎え、自分の仕事



中の振る舞いについて見直すための良い機会となりました。

「多数の職員の中で1人でも対応が良くない人がいれば、全体の印象に関わる」という言葉が印象深く残っています。

今後は自分がその1人にならないよう患者さんやご家族、他職員に対して相手の気持ちに配慮し、対応していきたいと思いました。

9階病棟 看護師 園川 帆南

フットケア外来1年を迎えて

昨年8月足病変予防に努めると共に、足病変患者の大切断を回避し、救肢に向けた治療・看護に取り組むことを目的として、フットケア外来を開設しました。開設当初はなかなか予約が入らず、不安もありましたが、半年が経過した頃から少しずつ予約が入るようになってきました。また、フットケア外来は、第2・4月曜日の9時から14時までの枠で、1日5人枠となっていますが、最近では1～4人の予約があり、平均2.5人の患者さんをみています。そこで、今回、フットケア外来での活動報告を行う共に、外来の紹介をさせていただきます。

(外来の流れ)

新患:問診・フットチェックを行い、病状に応じて循環器、整形外科、糖尿病代謝内分分泌科、皮膚科へコンサルトします。結果で入院が必要な場合もありますが、外来通院で可能であれば、フットケア外来継続となります。

再来:フットチェックを毎回行い、創がある際は、創部の評価・アセスメントを行い、その時その時必要なケア・指導を行います。状態に応じて外来の時期も検討し、予防的フットケアの患者さんは、毎月ではなく、3ヶ月に1回や、不安や問題があった際のみ受診としている患者さんもいます。

現在、フットケア外来へ通院している患者さんは、ほとんどが糖尿病であり、神経障害や末梢動脈疾患 (PAD) を合併しており、予防的フットケアを中心に行っています。さらに、糖尿病性足壊疽や、重症下肢虚血 (CLI) で入院加療した患者さんは、退院後の治療継続を行い、創部の悪化予防・治癒目的だけでなく、病状の悪化予防、血流維持・向上にも努めています。そのため、看護師だけのケアでは限界があるため、糖尿病代謝内分分泌科大磯医師、循環器中村医師、皮膚科医師、整形外科薬師寺医師に協力してもらいながら頑張っています。

(予約について)

既往に糖尿病があり、神経障害や末梢動脈疾患 (PAD) 合併、胼胝・鶏眼、巻き爪、肥厚爪、壊疽などの足病変がある患者さんであれば予約可能です。

診療科:循環器 医師:フットケア外来

糖尿病足病変は、潰瘍や壊疽により切断に至る場合もあり、足切断による生活への支障から、QOLの低下にもつながる可能性もあります。これからも、足病変予防に努めると共に、救肢に向けた治療・看護の継続に努めていきたいと思っております。



フットケア外来 看護師
根笹 真由美

糖尿病月間

11月は糖尿病月間です。そこで、今回「血糖値の急上昇を防ぐ食べ方」を栄養課から紹介して頂きます。

一般の人は食事を摂り過ぎてもインスリンが足りるため問題ありませんが、糖尿病の人は食べる量が多いとインスリンの出方が追いつかないか、インスリンの量が少ないため血糖値を下げる事ができなくなります。血糖値の上昇のスピードには食べ方も大きくかわるため、次の点に注意して血糖値をなるべく緩やかに上げるような食生活を心がけましょう。

●1日3食をきっちり!

1日2食だと1回の食事が増えるため、食後に血糖値が急激に上昇するだけでなく、体脂肪がつきやすい体になってしまいます。3食なるべく均等に、1日の食事を10とすると朝3:昼4:夕3の比率が理想的です。

●バランスの良い食事

パンとブラックコーヒー、おにぎりや漬物といった糖質に偏った摂り方は血糖値を上げやすくします。カロリーが高くなっても肉・魚のおかずや油・野菜料理、牛乳、果物などを一緒に組み合わせる方が効果的です。

●食べる順番を変える。

野菜やきのこ・海藻などに含まれる食物繊維には、糖の消化・吸収を遅らせる作用があるので、食事の最初に食べると良いです。

血糖値の急上昇を抑える食べる順番

野菜・きのこ・海藻 → 肉・魚 → ご飯・パン・めん



雑穀入りごはん

バランスの取れた食事を心がけましょう!



玄米パン

●ゆっくりと良くかむ

食べる時間が短いと満腹感を得る前に食べ過ぎてしまい、またインスリンが分泌される前に糖質を摂取してしまうため、1回の食事に最低でも15分くらいかけて食べましょう。

●低GI値(グリセミック・インデックス)を意識した食事をする

低GI値とは、食品ごとの血糖値の上昇度合いを間接的に表現する数値です。値が高いほど血糖値を急上昇させやすいという目安になります。

白米や白パン・うどんより玄米や大麦・雑穀・全粒粉パン・バスター・蕎麦など白より茶色が低GI値が低く、食後の血糖値の上昇を緩やかにしてくれます。

第1回地域医療サポーター養成講座開催!

10月26日に当院講堂にて第1回地域医療サポーター養成講座を開催し、患者会と併せて17名ご参加いただきました。

地域医療サポーターとは「地域住民の皆様が安心して医療を受けられるように、病気の予防のための知識を習得し、自己研鑽に努めるとともにそれを地域へ発信していく役割を担う方」のことです。具体的には、病気に関すること、予防医療に関すること、社会保障制度などについての講座に参加して自己研鑽や地域発信に努めて頂きます。

対象は、地域の方どなたでも登録ができ、サポーターへ登録して頂いた方に講座開催の案内をお送りし講座にご参加いただく流れとなっています。

今回、糖尿病代謝内分分泌科 大磯洋先生から「糖尿病について」と題して病気についてご講演いただきました。糖尿病とは何か、原因やそれに付随する合併症、その治療方法など大変わかり易くお話しいただきました。参加者の中からも「噛み砕いて話してもらい分かりやすかった」「大変勉強になった」など声があがりました。

今後も定期的に講座を開催していきたいと思っておりますので、ご興味ある方はぜひご登録・ご参加ください。

問い合わせ先:人吉医療センター 医療福祉連携室
TEL:0966-22-2191 FAX:0966-22-7879
MAIL:renkei@hitoyoshi.jcho.go.jp

地域医療研修を終えて

5月1日から半年間、初めての土地での研修生活に緊張と不安と期待を込めて来た人吉での研修も、あっという間に過ぎてしまいました。特に印象に残ったことは、救急センターにおいて一晩通しての当番を定期的に行ったことと、毎週のように飲みに行ったことです。救急センターでは子供からお年寄りまで、診療科に関わらず多くの疾患を診させていただきました。夜間ということもあり、指導医の先生方は御自身の専門科にとらわれることなく全身を評価して診察に当たられる先生方が大多数で

あり、限られた医療資源の中での医師としての姿勢そのものを教えて頂きました。今後は研修が明ければ専門科を勉強していくこととなりますが、まずは患者さんの立場に立って、患者さんのための医療を実践していくために精進していきたいと思っています。また人吉でお世話になる機会もあると思いますので、一回りも二回りも成長して帰ってきたいと思っています。半年間という短い期間ではありましたが、お世話になった指導医の先生方をはじめ、多くのスタッフの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。



協力型臨床研修医
光浦 智証

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域 包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「特別養護老人ホーム アゼリア」と「特別養護老人ホーム あずみ野」さんです。

『特別養護老人ホーム アゼリア』 Vol.13

【施設の特徴】

お客様の立場に立って、真心を込めたサービスを提供致します。ご利用者様に安心して施設をご利用いただき、自立した日常生活を営むことができるよう支援致します。

人吉市初の地域密着型介護老人福祉施設であり、全室個室となっています。そのため、入居者と家族のプライバシーに配慮した対応ができています。

季節ごとの行事や食事を提供することで、四季折々の季節感を味わっていただいております。

【対象者】

入居サービス：要介護3～5

在宅サービス：要支援1～要介護5

【サービス内容】

・特別養護老人ホーム（入居：29名）
利用者 と 施設職員がなじみの関係を築き、住み慣れた自宅や地域で生活を継続することを目的とした施設です。入居サービスは、人吉市の選定を受けた地域密着型特別養護老人ホームが行うものであり、ご家庭での生活が困難となり、常時介護が必要な状態である方が受けられるサービスです。完全個室のユニット型であり、家庭的な雰囲気を提供します。

・併設サービス（通所介護事業：18名、短期入所生活介護事業：10名）

【地域の皆様に一言】

当施設は、平成23年に人吉市初の地域密着型特養として開設して以来、地域に根差した施設運営に取り組んでいます。29床の小規模

な施設ではありますが、ユニットごとに入居者とスタッフがなじみの関係を築きながら、ケアを行っています。その他在宅サービスとして短期入所や地域密着型通所介護を提供し、利用者の在宅生活の一部を支えています。高齢者の尊厳を守り、その人格を尊重することを常に考えたサービスの提供を行い、地域に貢献できる施設として職員が一体となって取り組んでいます。

見学はいつでも出来ますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

Tel：32-9350

生活相談員 馬場美枝子



正面玄関



居室

【訪問者の感想】

施設訪問をさせていただき、まず驚いたのは、居室の広さでした。完全個室である居室には、ベッドの他ソファやタンスを置いてもまだまだスペースがある広さで、ご家族やお客さんが見えなくても、プライバシーが守られ、水入らずの時間がゆっくり過ごせるだろうなと思いました。

『特別養護老人ホーム あずみ野』 Vol.14

【施設の特徴】

基本理念：「優しく 楽しく ありがたく」

「あずみ野」は従来型特養を中心に、ユニット型特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援センターを兼ね備えています。

利用者様はもちろん、ご訪問なさるご家族の皆様にも快適にお過ごしいただけるよう配慮した、安心・安全な設備を整えております。

また、地域交流の場として幅広くご利用いただける多目的ホール・多目的広場を設置しており、地域の社会資源としても貢献しています。

【対象者】

入所：要介護3以上の認定を受けられている方

ショートステイ、デイサービスは要支援1～要介護5の認定を受けられている方

【サービス内容】

入所介護（従来型：定員30名、ユニット型：定員30名）

居宅介護支援センター

通所介護（定員：1日あたり40名）

短期入所生活介護（定員：10名）

配食サービス

【地域の皆様に一言】

「あずみ野」では、「優しく 楽しく ありがたく」をモットーも、利用者の皆様、そして地域の皆様の福祉サービスの提供の充実に励んでおります。

ご相談窓口もございますので、福祉についてのご相談等ございましたら、遠慮なくお尋ねください。

【お問い合わせ先】

TEL：42-6400 FAX：42-6554

統括生活相談員 荒瀬直樹

生活指導員 深水法嘉



正面玄関



居室

【訪問者の感想】

通所介護のスペースにウォーターマッサーの機械が2台設置されていました。なかなか他施設にはない設備にびっくりでした。こちらは、利用者の方に大人気の様です。

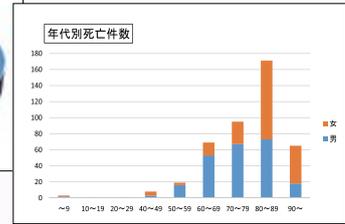
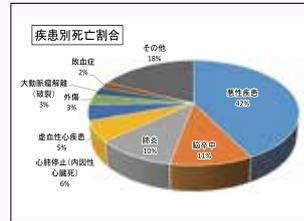
また、季節ごとのイベントの種類が多く、入所者の方、通所の方など、楽しく過ごしていただける施設だなと感じました。

合同慰霊祭

11月14日(火) 田中香花堂人吉斎場において、人吉医療センター物故者合同慰霊祭が行われました。ご遺族の方々と職員が参列し、平成28年10月1日～平成29年9月30日までに当院でお亡くなりになられた432名の方々のご冥福をお祈りしました。

統計では死因の約半数が悪性疾患となっており、次いで脳卒中、肺炎の順となっています。年齢をみますと平均年齢が78歳、また70歳以上が約8割となっており、高齢化は今後も益々進行していくと思われます。このような現状の中、当院は地域に根ざした病院、地域の皆様に信頼される病院を目指しながら地域の中核病院としての役割を果たしていきたいと思っております。

診療情報管理室 川内 広美



ご存知ですか？熊本県小児救急電話相談 #8000

おおむね中学生までの子どもさんの急な病気への対応や応急処置などを相談できる窓口です。夜間や休日の急な病気は不安なものです。医療機関へすぐ連れて行った方が良いのか、救急車を呼んだ方が良いのか、様子を見ても良いものか、保護者の方は色々とお悩みのことと思います。

急な発熱、嘔吐、下痢、腹痛など対応をどうすれば良いかわからない事がある時に、お電話で経験豊かな看護師に相談をすることができます。体調を崩しやすいこれからの時期にこそ上手に活用しましょう。

匿名で相談できますが、スムーズに相談をおこなうため相談内容をお話いただく前にお子さんの年齢、性別、お住まいの住所をお伝えください。



相談時間	* 平日	19:00 - 翌朝 8:00	TEL # 8000 (※ダイヤル回線、I P 電話、光電話からの使用不可)
	* 土曜日	15:00 - 翌朝 8:00	または
	* 日祝日	8:00 - 翌朝 8:00	TEL096-364-9999 (※ダイヤル回線、I P 電話、光電話から)

緩和ケア家族会

平成29年10月28日に緩和ケア家族会を当院3階講堂にて開催しました。今回は18家族21名のご家族が出席されました。当院からは、メディカルソーシャルワーカー・臨床心理士・傾聴ボランティア・看護師が参加しました。

写真撮影・自己紹介と進み、ご家族とお話では「ここに来たら当時を思い出します。病棟に上がれば、まだ会えるのではないかと考えてしまう。」と、涙を浮かべ大切な家族を亡くされた、悲しみや寂しさなどを話される方が多くいらっしゃいました。しかし、スタッフや同じ心境にある他のご家族と、故人とのできごとや、亡くされたから、どのようなお気持ちで過ごされているかなど話しをしていく内に、表情も和らぎ、笑顔もみられるようになり「今日、来てよかった。」という言葉が聞かれました。また、「看護師さん達の手を握っている時が嬉しそうだった。良くしてもらって天国でも感謝していると思う。」と言われ、胸いっぱい嬉しく思いました。



今回、家族会に参加し、ご家族の心情を知ることができ、改めてグリーフケアの大切さを感じました。この学びを今後のケアに生かせるよう努力していきたいと思っております。

8階病棟 看護師 内布 美菜

感染防止対策へのご協力

当院では、院内における感染防止のため、ご面会の皆様へマスクを着用して頂くようお願いしております。

実施期間 毎年11月～翌年3月まで

ご面会の方には各自でマスクをご用意頂き、マスクの着用のない方のご面会にご遠慮頂きますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

ご面会に来られる方へ事前にお知らせいたします。

ご面会の方には、病院内の掲示でもご案内をしております。なお、マスクは院内の売店や自動販売機でも販売しております。

また、マスクの着用以外にも感染防止のため、以下3点(通年)をお願いしております。

1. 体調の悪い方(下痢・嘔吐・発熱のある方)・小学生以下のお子様・大勢でのご面会はお控え頂くこと。
2. 面会者の方は、来院の際とお帰りの時に手の消毒を実施していただくこと。
3. 入院中の患者さんに、許可なく食物(特に、生もの)、生花のお見舞いをされることをお控え頂くこと。

ご理解とご協力をお願いいたします。

感染管理室 別府 るみ

平成29年度【熊本県・鹿児島県合同】県境トンネル防災訓練

10月24日、人吉市と鹿児島県伊佐市の県境に位置する国道267号九七トンネルにおいて、トンネル内での交通事故（マイクロバスと乗用車の正面衝突）を想定した防災訓練が実施されました。熊本県・鹿児島県の消防組合や医療関係機関、警察が連携し救助活動、復旧活動の訓練を行いました。両県の消防・警察などによる合同訓練で、トンネルが開通した平成16年から定期的に行われています。

当院はDMAT隊員として医師1名、業務調整員3名、看護師5名で参加しました。県立北薩病院からもDMAT医師1名、看護師2名が参加しました。DMAT隊はトンネル内の安全が確認された後、事故車両内に侵入し、トリアージ及び救命処置を行いました。またトンネルの外に応急救護所を設置し、

負傷者のトリアージ、応急処置を実施し、搬送医療機関の選定を行いました。事故現場はトンネル内で薄暗く、騒音などで観察や処置が困難であると訓練を通して感じました。このような合同訓練で消防組合や警察・行政・他医療機関と顔の見える関係を築き、連携をとっておくことが必要であると再認識しました。

最近、当院も多数傷病者を受け入れる事例を経験しました。当院は災害拠点病院であり、災害医療を提供する上で、中心的な役割を期待されています。日頃からあらゆる事態を想定し、災害時の患者受け入れ体制の整備に努めるよう全職員で取り組んでまいります。

DMAT 看護師 西山 博子



秋キャンプに行ってきました



今年度、第2回目の活動として11月初旬に湯前グリーンパレスキャンプ場で3組の家族でキャンプを行いました。3連休ということもあり、たくさんのキャンパーが来られていました。

キャンプ場内は紅葉も少し進んでいて、秋を感じました。

夕食は、子供たちは醤油ベースの鍋、大人たちはスンドゥ

ぶ。その他にお刺身とバーベキューという何とも贅沢な夕食でした。夜になると少し肌寒くなってきますが、キャンプの醍醐味、たき火をしながらの焼きマッシュマロを堪能しました。たき火は心身ともに癒され、また子供たちにとっては火の扱い方のお勉強になります。キャンプ場で過ごす時間は親子との触れ合いタイムにも最適です。かっこいいお父さんを演出する場にも最適ですよ～！

キャンプ同好会は单身の方でも家族の方でも大歓迎です！
ご参加、心からお待ちしております。

キャンプ同好会 広報部長 放射線技師 吉松泰浩

新任紹介



信國 有紀(協力型・臨床研修医)

最終卒業校：久留米大学

趣味：ドラマ鑑賞、外食

モットー：温和でありたいと思っています。

自分のコマーシャル：3ヶ月という短い間ですが、どうぞよろしくお願い致します。



中村 真穂(9階病棟・看護師)

最終卒業校：横浜市医師会保土谷看護専門学校

趣味：読書

生活信条：感謝する

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：少しでもお役にたてるように精進しますので、よろしくお願い致します。



中村 弥咲(医事課・事務員)

最終卒業校：熊本デザイン専門学校

趣味：音楽

自分の性格：真面目、几帳面

自分のコマーシャル：何事にも一生懸命に頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

10月の勉強会報告

11月1日(水)地域医療講演会

「地域医療構想から考える球磨医療圏の医療提供の在り方」
東北大学大学院医学系研究科 公共健康医学講座 医療管理学分野 教授 藤森 研司先生

11月6日(月)人吉球磨不眠症講演会

「高齢者における睡眠障害の治療とせん妄対策について」
吉田病院 院長 村上 良慈先生

11月29日(水)第62回人吉・球磨最新医療研究会

「転移性脳腫瘍に対する放射線治療の動向」
山形大学 放射線医学講座 教授 根本 建二先生

